



## 第7分科会

### 「世界がもし100人の村だったら ～山形から知る世界～」

●担当：チーム100人村：後藤優子、酒井悠里、島貫晶江、酒井森平（以上山形大学異文化交流コースOGOB）、  
渡部詩織（山形大学4年）、三上英司（山形大学地域教育文化学部教授）

●分科会のねらい・目的：


・ワークを通して体感した内容が、山形だけの問題ではなく、実は世界で起きている問題と共通点があることを知ってもらおう。

●参加者人数：32名

#### 1. 分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
<p>アイスブレイク</p> <p>ファシリテーター： 後藤 優子 渡部 詩織</p>	<p><u>入村手続き</u></p> <p>役割カードの配布</p> <p><u>じゃんけんハイタッチ</u></p> <p>緊張感をほぐすため、出会った人とじゃんけんをして、あいこの場合はハイタッチ、勝敗が付いたら握手をする。</p> <p><u>山形を知ろう！「グループ対抗日本一クイズ」</u></p> <p>山形が誇る日本一のもの当てクイズ。「食べ物編」「食べ物以外編」を行った。</p> <p><u>山形を知ろう！「友好都市はどこでしょう」</u></p> <p>山形県や県内市町村が世界のどの地域と友好都市になっているのか、またそのきっかけは何なのかを知ってもらうためクイズを行った。市町村の友好都市については、「私と友好都市なのは山形県内のどこか。」という形式でクイズを行い、山形県の白地図の該当する市町村の場所を塗りつぶし、市町村名を書き込んでもらった。</p> <p>《主な友好都市》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県：アメリカコロラド州、中国黒龍江省、インドネシアパプア州</li> <li>・天童市：イタリアマロスティカ州（人間将棋、人間チェスを行っていることから）</li> <li>・寒河江市：トルコギレスン市（トルコがサクランボの発祥の地とされていることから）</li> <li>・米沢市：ブラジルタウバテ市（米沢市内の企業が工場進出したことから）</li> </ul> <p><u>山形を知ろう！「山形県の貿易クイズ」</u></p> <p>山形県の貿易に関するクイズを3問出題し、輸出と輸入どちらが多いか、輸入額が多い国はどこか、山形県で生産された製品で、海外でも高い評価を受けたものは何か考えてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出と輸入で多い方：輸入（輸出額の約3倍）</li> <li>・輸入額が多い国：中国、ドイツ、スペイン</li> <li>・海外でも高い評価を受けたもの：山形県で伐採された木材を加工した木のおもちゃ</li> </ul>
<p>ワーク1</p>	<p><u>山形県の人口</u></p> <p>山形県の人口を参加者に予想してもらった後、正解（2018年8月現在約110万人）を発表。</p>



<p>ファシリテーター： 酒井 森平</p>	<p><u>山形県内の年齢別人口比率</u></p> <p>参加者に配布した役割カード①に記載してある区分（子ども・大人・お年寄り）で分かれ、それぞれ1列に並んだ。この列が2015年現在の山形県の年齢別人口比率を表していることを発表。その後下記に従って列の人数を移動。</p> <p>① 2015年の比率／子ども13%：大人58%：お年寄り29%</p> <p>② 2025年の比率／子ども12%：大人53%：お年寄り35%（人口：100万人）</p> <p>③ 2040年の比率／子ども6%：大人49%：お年寄り45%（人口：80万人）</p> <p>上記のように、人口は減少し続けるであろうこと、お年寄りが増えて子どもは減っていくことを体感した。</p>
<p>ワーク2</p> <p>ファシリテーター： 酒井 悠里</p>	<p><u>山形県内の4地域の人口…①</u></p> <p>役割カードの記載に基づき参加者を、県内4地区を表す紐の中（村山：黄、置賜：緑、最上：青、庄内：赤）に入ってもらった。</p> <p><u>山形県内の人口移動…②（①の状態から移動）</u></p> <p>参加者が入っている紐（地域）を生まれた場所とし、別の地域に移動する人がどのぐらいいるかを、実際に移動して体感した。結果は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最上からの移動が最も多く、その分村山の人口が増加。</li> <li>・置賜、庄内は人数の移動はあったものの、大きな増減はなし。</li> <li>・紐の中に残った人数は、村山、庄内、置賜、最上の順で多く、かつこの人数が現在の各地域の人口比率を表している。</li> <li>・県内では山形市がある村山地域に人が集まっている。</li> </ul>  <p><u>山形県外への人口移動…③（②の状態から移動）</u></p> <p>役割カードに記号の記載がある参加者に、入っている県内の4地域の紐とは別の紐（県外を表す）へ移動してもらった。その移動者が1年間の県外への転出者の割合を示すことを紹介するとともに、転出者の紐の中にいる人のうち数名に元の地域へ戻ってもらい、県外からの転入者の割合も示した。</p> <p>また、次のことを紹介した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県は毎年、転出者が転入者より約4,000人多いため人口が年々減少している。</li> <li>・転出者の多くは都市部へ移動している。</li> <li>・このような転出入の状況は山形県に限らず、多くの都道府県で見られることで、各地域の中心都市へ人口が移動する傾向がある。例えば、東北地方でみると宮城県、東日本でみると東京都に他県等から人が集まっており、逆に、その他の地域では人口が減少している。</li> </ul>
<p>ワーク3</p> <p>ファシリテーター： 島貫 晶江</p>	<p><u>山形県の外国人人口</u></p> <p>山形県の在住外国人人口の推移を示す表を掲示。</p> <p>4年前と比較して、山形県に在住する人が3倍以上になっている国名が空欄となっており、その国がどこか参加者に考えてもらった。</p> <p>答えは「ベトナム」であり、正解する参加者もみられた。</p>

	<p><u>ベトナムの人口</u></p> <p>山形県内の外国人人口のうち、ベトナム出身者が急増していることから、ベトナムについて掘り下げるために、まずはベトナムの人口を紹介した。また、役割カードの記号で参加者に3つのグループに分かれてもらい、何のグループに分かれたのか予想してもらった。答えは、ベトナムの子ども、大人、お年寄りの割合に沿ったグループであり、参加者は、ワーク1で体験した山形県の年齢別の人口に比べて、子どもの人数が多いことに驚いていた。</p> <p><u>ベトナムの地域と人口移動</u></p> <p>役割カードに書かれた数字をもとに、均等な人数の6つのグループ（ベトナムの6地域を示すグループ）別に参加者に分かれてもらった。その後、ベトナムの各地域の人口を紹介するとともに、各グループに写真入りのボードを配布し、そのボードに書かれた地域の特色を地域グループごとに発表した。地域の特徴をつかんだところで、各地域グループから数名ずつ他のグループに移動してもらい、地域間の人口移動を体感した。また、特に移動する人が多かった地域について、なぜその地域に移動する人が多いのかをグループごとに考えてもらった。その結果、参加者からは都市部や工業が盛んな地域に仕事を求めて移動する人が多いのではないかという意見などが出された。</p>
<p>ふりかえり</p> <p>ファシリテーター： 後藤 優子</p>	<p><u>今日の感想</u></p> <p>参加者数名に、ワークショップを通しての感想や、初めて知ったこと、気付いたことを自由に話してもらい、その内容のトピック担当者にもコメントしてもらった。</p> <p><u>山形とベトナムの共通点、異なる点を話してみよう</u></p> <p>ワークショップを通して、山形とベトナムの共通点はあるか、あったとすれば何か、また山形とベトナムで異なる点はあるかを参加者に自由に発表してもらった。</p> <p>参加者から出された主な内容は次のとおり。</p> <p>(共通点) 山形県もベトナムも米づくりがさかん、一方、山形県でも農業以外の仕事に就いている人が多く、ベトナムでも農業の就業者数は減少傾向にある。</p> <p>(違い) 山形県では県庁所在地の山形市の人口が最も多いが、ベトナムは首都のハノイよりもホーチミンの人口が多い。</p> <p><u>日本人がベトナムに行く目的・ベトナム人が日本に来る目的</u></p> <p>ベトナムに行ったことがあるファシリテーターにインタビューし、日本人がベトナムを訪れる主な目的が「観光」であることを確認した後、ベトナムをテーマにしたワークショップをふりかえり、ベトナム人が日本を訪れる主な目的を考えてもらった。山形県にいるベトナム人は「技能実習生」が多いことから、「技能実習生」について、何か見聞きしたことがあるか、あればどのような内容かを数名に質問した後、グループごとに外国人を迎える側として自分たちには何ができるのかを考えてもらい、発表を行った。</p>

## 2. 使用した教材や参考資料

- ・ 山形県ホームページ

… 『山形県の国際化の現状』(2016年3月) 山形県商工労働観光部観光経済交流局経済交流課国際室

<https://www.pref.yamagata.jp/sangyo/kokusai/plan/6110015kokusai/kanogenjyo.html>

… 「山形県貿易実態調査の結果について」

<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kanko/110016/bouekijittai-chousa.html>

…「平成 29 年 山形県の人口と世帯数について」

[https://www.pref.yamagata.jp/ou/kikakushinko/020052/tokei/jinko\\_H23nenpo.html](https://www.pref.yamagata.jp/ou/kikakushinko/020052/tokei/jinko_H23nenpo.html)

…「山形県の人口と世帯数（推計）（平成 30 年 8 月 1 日現在）」

<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kikakushinko/020052/data/jink/H30jinkogepo/30.08.pdf>

- ・山形市ホームページ『山形市の姉妹・友好都市について』

<http://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kakuka/somu/kokusai/sogo/sistercity/sistercity7.html>

- ・天童市ホームページ『天童市 友好・姉妹都市』

<http://www.city.tendo.yamagata.jp/municipal/syokai/simaiyuukoutosi.html>

- ・寒河江市ホームページ『寒河江市 友好姉妹都市』

<https://www.city.sagae.yamagata.jp/sagae/yukoshimaitoshi.html>

- ・山形県国際交流協会ホームページ <https://www.airyamagata.org/>

- ・外務省ホームページ「ベトナム社会主義共和国」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/index.html>

- ・JETRO ホームページ「調査レポート（ベトナム）」<https://www.jetro.go.jp/reportstop/reports/asia/vn/>

- ・株式会社国際協力銀行ホームページ『ベトナムの投資環境』（2017 年 8 月）

<https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/inv-vietnam201708.html>

- ・『現代ベトナムにおける人口移動の要因と地域間格差』

<http://repository.tku.ac.jp/dspace/bitstream/11150/6398/1/keizai279-11.pdf>

- ・VIETJO ベトジョーベトナムニュース [https://www.viet-jo.com/home/province\\_list.php](https://www.viet-jo.com/home/province_list.php)

### 3. 参加者アンケート

- ・山形やベトナムの人口移動の様子を小さなスケールでわかりやすく知ることができました。山形県では一度他県にいった人でも意外と戻ってきているのだなと思いました。色々な人と話し合っって色々な考えが聞けて楽しかったです。
- ・実際に動いて目で人口の動きなどがわかってとてもわかりやすかった。同じように他の国についても知りたいと思った。
- ・ローカル、グローバル、グローバルな視点に立って経済や人口の行方を体験的に考えることができ楽しかった。
- ・人口や世代別など普段、数字でしか見ることのできなかつたデータを、人の移動で表すことで、身近に感じることでよかつた。山形県の地元の様子を考えると同じ尺度でベトナムについて捉えることができたのでよかつた。

### 4. 担当者所感

【ファシリテーター：後藤優子（チーム 100 人村）】

昨年度に引き続き、100 人村（山形版）をさせていただきました。今回は世界の国々の中からベトナムに注目したトピックを追加しましたが、クイズやワークを通して、山形の現状や未来、世界とのつながりを体感していただけたのではないかと思います。ベトナムに注目した分、世界全体を取り上げることができなかつたので、今後は更に各トピックに世界のことを盛り込めるよう改善していきたいです。ご参加いただいた皆様には活発に意見を出していただき感謝しています。